教　師　ノ　―　ト

日付	2011年　2月20日
単元	創世記・5
テーマ	万事を益としてくださる神
タイトル	総理大臣になるヨセフ
テキスト	創世記41：1～42：6
参照箇所	

暗唱聖句（教会で使用している聖書訳を記入して下さい）
　ローマ8：28

AG 日曜学校教案参照箇所　（リンクできます）
　小下 2 巻 5 題 7 課、小上 1 巻 1 題 8 課

❑ポイント1　ヨセフはパロの夢を解き明かしました（41：1～37）

　献酌官長がヨセフのことを忘れてしまったので、それから2年もヨセフは監獄にいました。兄たちによって売り飛ばされてから、13年が経っていました（37：2、41：46参照）。そんなある日、パロが夢をみました。パロは、その夢のことが気にかかって仕方ありませんでした。夢の意味は何だろうかと考えましたが、エジプト中のどんな専門家も、それを解き明かすことはできませんでした。その時、やっと献酌官長が、ヨセフのことを思い出しました。彼は、2年前に起こったことを、パロに伝えました。「監獄にいたときに、ひとりのヘブル人が、私たちの夢のを解き明かし、そのとおりのことが起こりました。あの人なら、きっと王様の夢の意味が分かるでしょう。」 神はやはりヨセフを見捨ててはおられませんでした。

　パロはすぐに、ヨセフを呼び寄せました。ヨセフは、「夢の意味が分かるのは、私ではなく、神さまです。」と言いました。王様の前で、未来を知っているのは創造主なる神だけだと力強く宣言したのです。王様は、ヨセフに夢の話をしました。「私は7頭の太った牛がナイル川から出て来て、草を食べるのを見た。次にやせた、お腹のすいたような牛が7頭また川から出てきた。ところが、やせた牛が太った牛を食べてしまった。それでもやせた牛は、前と同じようにやせていた。そこで目が覚めたのだが、またすぐにもうひとつの夢を見た。それは1本の茎に7本の穂が出て、その穂は良く実って重そうだった。次にやせ衰えた、何もなっていない穂が7本出てきた。見ていると、やせた穂が良く実った穂を食べてしまった。」

　ヨセフはパロに応えました。「2つの夢は同じことです。7頭の太った牛と7本の良い穂はエジプトの7年間の大豊作を意味します。7頭のやせた牛と、7本のやせた穂は、エジプトに来る、何も実らない7年間のきびしい不作、大ききんを意味します。神はすぐに、何でも良く育つ7年の大豊作を与えられますが、続いて7年間の非常にきびしいききんを起こされるので、何も食べるものがなくなります。ですから王様、どうかすぐに知恵のある人を見つけて、ききんの準備のために、国の指導をするリーダーにしてください。また、国中に監督官を置いて、7年の豊作の間に、充分な食べ物を蓄えさせてください。そうしないと、この地がききんで滅びてしまいます。」 ヨセフの語った内容とその様子は、非常に神の知恵と力に満ちていたのでしょう。パロとその全ての家臣は、奴隷であり、囚人であったヨセフの言うことに、すっかり心を奪われ、納得してしまいました。

✍ヨセフは、単に夢を解き明かしたのではなく、神がこれを計画しておられるという確信をもって宣言しました。また、ヨセフは夢の意味だけでなく、パロのとるべき行動まで語りました。

❑ポイント2　ヨセフはエジプトの総理大臣になりました（41：38～45）

　パロは家臣たちに言いました。「神の霊の宿っているこのような人を、ほかに見つけることができようか。」 パロは、ヨセフの言うとおり、ききんでエジプトが滅びないように、賢い指導者が必要だと考えました。その時、神がヨセフを通して働いてくださっているのだから、ヨセフが最もその指導者にふさわしいということに気がつきました。そしてなんと、さっきまで監獄にいた外国人奴隷のヨセフを、その場で総理大臣に任命すると、宣言しました。ヨセフは、エジプト全国を治め、王様の次に偉い責任者になりました。パ

ロは、権威のしるしとして、自分の印の入った指輪をヨセフの指にはめ、立派な服と、金の首飾りを首にかけました。そして「私はパロだ。しかし、あなたの許しなくしては、エジプト中で、だれも手足を上げることもできない。」と、絶大な信頼をよせました。ヨセフは結婚をして、２人のこどもを与えられました。

✎ツァフェナテ・パネアハ:「神は語られる、そして彼は生きる」という意味だと考えられています。ヨセフは、名前も変え、エジプトの祭司の娘と結婚をしましたが、異教に同化されたわけではりません。ヨセフにエジプトでの役割を与えられたのは、真の神であり、ヨセフはその神を大胆に告白していました。

❑ポイント3　世界中の人が食糧を買いにヨセフのところに来ました（41：50～42：6）

ヨセフは総理大臣になったとき、まだ30歳でした。彼は、7年の豊作の間、エジプト全国を管理して、食物を蓄えさせました。量ることができないくらい、充分に多くの食料が蓄えられました。そしてついに、七年の豊作が終わり、七年間の大ききんが始まりました。他の国も、きびしい不作で人々は苦しみました。エジプト中から、ヨセフのもとに、飢えて食物を求める人たちが、ひっきりなしにやって来ました。ききんはますますひどくなり、全世界から、飢えに苦しむ人たちが、ぞくぞくと穀物を買いにヨセフのところにやって来ました。

イスラエルに住むヤコブの一家も、やはり不作で食料が足りず、困っていました。ヤコブは、息子たちに「エジプトへ行って、穀物を買ってきてくれ。」と言いました。大切なアブラハムの子孫である一家が飢え死にして絶えてしまっては大変です。ヨセフの10人の兄は、こうして、エジプトへ穀物を買いに行くことになりました（ヤコブは、ヨセフの弟ベニヤミンだけは、どうしても行かせませんでした。ヨセフを失ったように、ベニヤミンまでも災難にあわせたくなかったのです）。しかし兄たちは、エジプトの総理大臣が、まさか弟のヨセフだとは思いもよりません。彼らは、顔を地につけて、ヨセフを拝んだと書いてあります。つまり、なんと兄たちは知らないうちに、ヨセフが初めに見た夢のとおりの行為をしたのです。これはいったいどういうことでしょう。神は、初めから、ヤコブの一家を守る計画を実行しておられたのです！ヨセフの身に起こった苦しいことも、すべては家族を幸せにするためだったのです。

❑結論　神さまはすべてを益としてくださるお方です　　*暗唱聖句を読み上げます*

❑適用　（聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう）

ヨセフがエジプトに来たきったけを覚えていますか？彼は兄たちに憎まれて、売り飛ばされたのです。そして、奴隷となり、監獄にまで入れられました。それは、ヨセフが、エジプトの総理大臣になるために、必要な試練でした。そして、それによって、ヨセフの家族をききんから救うことができるようにしてくださったのです。アブラハムの家系が滅びることが無いように、神さまは全てを働かせて益としてくださったのです。神さまは何でも知っていて、何でもできるって、ホントなんだね！みなさんの身の回りでも、悲しいことやつらいことがたくさん起こります。その苦しみの中にあるときは、はマイナスにしか見えないことでも、じつは、あなたを幸せにする計画の一部なのです。神さまは必ず最後はプラスにしてくださるお方です。ヨセフの夢がそのとおりになったように、神さまは私たちの将来をご存知です。神さまはあなたを幸せにするための愛の計画をもってくださっているのです。どんな悲しみや苦しみも、喜びと感謝に変えられる「時」ときが来ます。神さまだけが知っている、一番良いタイミングで与えてくださいます。人間がどんなにがんばって実現しようと焦っても、逆に神の計画を阻止しようとしても、究極的には最後は神の計画だけが成るのです。

①きっと今までも、苦しかったことが、あとになって「益」なった経験があるはずです。それを思い返して、分級のおともだちと話し合ってみよう。そして感謝しよう。

②今「ツライな～、悲しいな～」と感じていることも、必ず益になると信じよう。今はマイナスに見えることが、どんなプラスになるのか、想像して話し合ってみよう。そうすれば、希望がわいてくるよ！神さまに期待しよう。

③苦しみの中にあるときは、それが益になることを信じられないという人もいるでしょう。おともだちのために、とりなしの祈りをしよう。